夕刊
十二月一日發行
定價一ケ月金六拾五錢（郵送料共金六拾錢）
（日曜祭日翌日休刊）

創作

大暴風雨（戲曲）

（風に）

（一九三二、一一、一六）

黄多村生

（上）

あぶらを流した様な平穏な日が海上にも四五日續いた。秋刀魚を滿載した發動機船平安丸は今しも銚子沖二百五十浬の地點を母港江名濱に向つてボン〜と快いエンヂンの音を響かせて航行を續けてゐる、甲板には網を修繕してゐる者、船具の手入をしてゐる者等十二三名船長の佐平と船一番の愛嬌者長吉を取り圍んで思ひ〜に雜談に耽つてゐる。

船長佐平『全くいゝ風だなあ、この分では豫定より早く江名へ着くかも知れねねぞ』

船員の一『船長全く今度は運のいい航海だつたなあつて漁は申分なくあつたし網はいたまなかつたし』

船長『もう惠比壽講も四五日だ、今度歸つたらうんと御馳走してやるぞ』

船員の二『船長ほんとでせうね、ずつと前にも御馳走するつて言ふから喜んでゐたが、間もなく書き終ると大きな欠伸をした途端長吉頓狂な聲で

『船長素晴らしく大きな汽船がやつて來ましたよ』

一同驚いて長吉の方を向く。

船長『ほう成る程こいつは大きいぞ何處の船だらう！』

長吉『にいみんなあの船何處の船だか知つてるかい』

船員の三『どうも見馴れねえ船だ、それに遠くてはつきりわからねえ』

やがて汽船が次第に近づいて來る、小山の様な白く塗裝した素晴しく大きな汽船

長吉『どうだ今度は判るだらう』

船員の一『俺も長い間海上生活をして色々な船に出くわした事があるがこんな大きな船ははじめてだ兎に角日本の船でねえ事は確だ』

船員の二『長吉、貴様子供のくせにそんな事を言ふが知つてるのか』

長吉得意相にふんぞり返

船長『へん、長吉様は伊達には學問はしねえよ』

船員の一人長吉をなぐる真似をする、逃げながら

『打つのは勘辨して呉れ、言ふよ言ふよ』

彼は船尾の運轉室の屋根にかけ上つて眞近に迫つて來る大きな汽船を見つめながら（一同仕事の手を休めとんだ糠喜びしたことが長吉を見てゐる）

『みんなよく見な、船首の方にローマ字で書いてあるだらう、あれが船名だ日本語に譯すとエムプレス、オブ、ジャパン號と言ふ、カナダ大平洋汽船の優秀船だ、噸數が三萬六千噸、我々の平安丸は五十噸だから丁度この船の七百二十倍の大きさだ、この前鰹漁の時金華山沖で行き會つた郵船日本一の秩父丸が今迄は太平洋の女王様だつたが、今度あいつが出來てからすつかりお株を取られつちやつたんだ、全く癪だね』

一同感心して長吉の言ふ事をきいてゐる。

易水に根深

堤光泰

蕪村の百五十年忌の意味で、こんな文句を標題にしたわけではない。たゞ私は近頃の日本文學の榮養不良それに併發して、その固定化、瑣末化の病狀は、蕪村の爪の垢でも煎じて飲んだら幾分持ち直しはせぬかと考へてゐるのだ、殊にこの『易水にねふか流るる寒かな』に見られる寂落さと、ユーモアと抱容力の大とがさしづめ最も効目ある藥ではないかと思ふのだ。

今日の文學を細く痩せらせてゐるものは、下らない神經質な懷疑論である、木曜日の次は果して金曜日か明日、太陽が西から昇らぬと果して誰が斷言し得るか天から雨の代りに茹で玉子が降つて來るかも知れない乳首を含んでゐた頃の君と籠に青海の波を湛へてゐる今の君とは、全然別人だが名前は依然として太郎である理由如何。

このやうな驚くべき懷疑が、近代人をある魅力を以て支配し、それが今日の文學に反映して、結局文學を青白い存在にしてしまつた外は象皮をかぶつて、内心小馬の様な神經質な存在に勿論私は正當な懷疑を拒否するものでもなく、猪のドグマを持てといふのでもない、だゞ少し、馬なら馬らしく、奔放自在なスケールがあつていゝと思ふ、支那の易水が飛び出して來ても構はない如く、中河與一氏が、彼の壁一面に掛けた世界地圖から『モンテビデオの女』なんていふ小説を作り上げたつて差支へない筈。久野豐彦氏の見て來たやうな嘘も許せるわけ要は風雅々易水寒。といふ歴史的詩句と、地理的な易水と、そして葱と、この三者を調和した蕪村の偉大なる力があればいゝのだ。女ねねなるなアの様な自然的な心境小説かなアに、むすめしからたるなら、どうなと氣儘にするがよい、ェ可厭ちや〜！

おどろに亂れた髪を振つた。

『コレ聞分のねえ、何をほざいてやがるんだ、可厭だといはれてオイソレと濟ますやうなら、な、おい、態々白川くんだりまで出張つて來てよ、夜宵中御苦勞さまに手前の家までお見舞ひ申して草かごなんぞに手前を乘せて、エンサカホイ〜と此様山中へ擔ぎ込んちやアありやアしねえ、些とは此方共の身にもなつて考へて見やアがれ、べらぼめえ』

勘太は勝手な不平を言ふ

『ちやア甚麼でも可厭か』

『あいな』

三人は顔を見合せて苦笑した。

指華微笑

元日から生れる豐臣秀吉見たいな常磐石炭販賣會社

◇

上る事も早かつた潜水艦の權威高木大佐

◇

肥料代に困しむ疲憊の農家。戰忘年會のトップ

○……○

辨天様も多數出る事だらう

◇

どうにもなる子なんて捲いたか知ら

◇

さに鐵砲が無いやうなもの

◇

元日の祭禮。出の唄　五、下る居ろ）

加藤谿水

△九、〇〇A　忠臣藏花暦……清元（道行旅路花聟……落人）清元正太夫　外

△〇、三〇A　時報　ニュース　氣象

△八、〇〇H　日高祭禮囃子（一、打囃子　二、鈴囃子　三、神樂囃子……立町組　四、一聲くづし……横町組　五、祇園囃子……大町組）岩手縣水澤町

△八、三〇C　尺八俗曲獨奏（一、驛路　二、野崎村　三、三十三間堂　四、船

を切る七福會。

失望

（自由詩）

古川哲夫

雨の降る
深夜のことである
彼は彼女に逢つて
何を語つたか……
悲觀と失望で
彼の心はくらかつた
薄闇い彼の室内は
春だのに
秋を思はせる
電燈の灯影が
淋しく
猫の目のやうに
青く光つてゐる

講談　お蘭陀お蝶

（196）

渡邊默禪作
布施長春畫

『そいつア豪氣だ、内職がノビと來らやア堪へえられねねなア』

『なアに、むすめしからたて群つて爲る仕事早くからるなら、どうなと氣儘にするがよい、ェ可厭ちや〜！』

おどろに亂れた髪を振つた。

『コレ聞分のねえ、何をほざいてやがるんだ、可厭だといはれてオイソレと濟ますやうなら、な、おい、態々白川くんだりまで出張つて來てよ、夜宵中御苦勞さまに手前の家までお見舞ひ申して草かごなんぞに手前を乘せて、エンサカホイ〜と此様山中へ擔ぎ込んちやアありやアしねえ、些とは此方共の身にもなつて考へて見やアがれ、べらぼめえ』

勘太は勝手な不平を言ふ

『ちやア甚麼でも可厭か』

『あいな』

三人は顔を見合せて苦笑した。

〜

○

向ふから來た自動車に道ゆづる、千波放水路の土手の枯草

石田一夫

冬服に薬香重き老教師

曲水

○

斷じて之を爲せば鬼神も之を避く、苟も疑ふ處あらば爲さざるに如かず……

（羽倉簡堂）

時代警

ラヂオ

……二日…〔金曜〕……

仙臺　JOHK

△前七、〇〇　八、〇〇A　ラヂオ體操

△九、〇〇　氣象

△九、一〇H　料理献立（柿のコンポト）成田玉純

日用品値段

△一〇、三〇A　家庭講座（交際と贈答）　阿部靜枝

△正午A　時報　氣象

△後〇、〇五H　漫談（ジャズ）春雨家雷藏

△〇、四〇A　ニュース

△二、〇〇A　婦人講座（アメリカ新大統領夫人を語る）布利秋

△三、四〇　氣象

△四、〇〇　ニュース

△四、二〇A　講演（ラヂオ調査の結果について）遞信省電務局業務課長田村鎌治郎

△五、〇〇　受驗講座（漢文）塚本哲三

△六、〇〇（子供の時間）

△六、二〇　コドモのシングン　關屋五十二

△六、二五　英語講座（初等科）岡倉由三郎

△六、五五　カレント、トピックス　ハロルド、バーマー

△七、〇〇　ニュース　氣象

△七、三〇A　講演（最近の滿洲國を視察して）陸軍

平町田町
高久病院
（電話五一三番）
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科　小兒科
外科　花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

長品廉賣に勝る
商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋
和洋銅物
久
釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番　九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は久の生命なり

大塚の特賣
◎男女耐久學生靴　五圓より
◎七五三御祝小供靴　八十錢より
◎同　小供ゴム長靴　四十錢より
最新形入荷
◇アンダーシャツ
◇オーバーセイタ
◇流行シャムバー
各種豊富に安價に！
大塚製靴部
運動具部
平田町　電話七七番

貸切ノ御用命ハ
イツデモ眞先ニ（マツサキニ）
松崎（マツサキ）ニ
三九二タクシーへ
（デンワ、ミクニ）

內科、小兒科
外科一般、婦人科
外科、梅毒、淋疾
皮膚病
平町田町本通
市原卯太郎
市原陸郎
市原三三男
市原醫院
（入院隨意）
電話一一四番

產科
婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井阪醫院
（元合津醫院跡）
平町田町
電話五五九番

漆器も需要季に入り俄然暴騰致しました
絶好無二の御買時
在庫品見越買附品豊富
◎平素ノ御引立ヲ衷心ヨリ感謝シ
◎大奉仕精神ヲ徹底セシムベク
○在庫品全部ノ從前値段販賣ノ一大奉仕
お正月の御用意お屠蘇具が
種々入荷致しました。
專門漆器平町に只一軒の……
ドコヨリモ。ヨイシナナ……
ドコヨリモ。ヤスクウル。メリモノミセ
各國產漆器專門卸小賣
共榮漆器店
（平町3町目36元郵便局裏通）
店員募集　十二三才…小店員　優遇す
三十才迄…外交員

十日
體温計の檢査日です
お宅の体温計は？
檢査機新設
正確な体温計を御利用下さい……
毎月十日の檢査日を御利用下さい
度量計
計量器
指定販賣所
西村屋藥局
電三番

七五三に是非
大人になつてから小供時代の姿を見たいのは人情です。
再び來らぬ幼少時代の可愛い御寫眞を揃へて保存してやるのは親さん方の御情けと思ひます。
是非に宮參りの御歸りがけに御立寄り下さいませ。
御祝ひの爲に當館も特に勉强致します。
平町才槌小路一番地（田町通り）
ライト寫眞館
電話五三五番

お醬油は……ヤマフル
味噌醬油
たひら正宗
鰹節食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番　本店二七番）
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

一內科般
難波醫院
醫學博士　難波睦
平町大町新川端（電話五〇二番）

愈々明春元旦を期して
常磐炭販賣會社營業開始
販賣方面完全に統制される

常磐炭界販賣方面の統制機關たる常磐炭鑛販賣株式會社は既報の如く過般來關係者間に於て夫々協議を進められてゐたが此程愈々資本金五十萬圓四分の一拂ひ込みを以て實現する事となり來二十日迄に創立總會を開く筈で全國的統制機關たる昭和石炭の株主となり明元旦より營業を開始するが社長以下左記の顔ぶれに決定するものの如く磐城、入山、大倉、古河四大炭鑛の合議制になるらしい形勢に在る

社長渡邊六藏（磐城）　常務取締役岡部正樹（同上）　菅谷隆良（古河）　畠山藏六（大倉）　取締役渡邊貫一郎（入山）　監査役松葉谷良太郎（古河）　阿部又三郎（無煙）

肥料代に困しむ
災後の農村窮狀

郡下農村では徹底的な今回の災害を嘶ち乍らも愈々施肥季が近づいたので明年の收穫に希望をかけ弗々肥料を購入せんとしつつあるも窮乏のドン底に在る折柄どう藻掻いても現金の調達付かず頭を惱まして居る向が多いので郡産業組合では極力之に融資する方針で目下希望者の調査中であるが組合自体も從來の貸付金が悉く固定し特融資金を申請して居る場合とて成り行きを憂慮されてゐる

義捐金募集
水産會其他が發起

郡水産會、町村長郡支會並四倉、豊間、江名、小名浜各漁業組合が發起となり遭難漁夫遺族に對する弔慰金を一般から募集する事となり今一日關係各方面へ趣意書を配布したが申込場所は小名濱町水産試驗場内郡水産會で二十五日締切るとて居る場合とて成り行きを

辛い中を我慢して
新米を賣り惜む
益々奔騰の氣配

暴騰を續けて居る米價は今一日の市場相場が四等地米八圓五十錢、産地米八圓六十錢、郡山米八圓七十五錢で今一週間に地米五十錢惜んで居る

忘年會のトップ
盛會を豫想さるる
八日谷口樓の七福會

七十七銀行平支店の特別關係者より成る七福會忘年會は八日午後五時から谷口樓で開催するが新任小原支店長は着任來堅實なる敏腕と至極圓滿なる人格を謳はれて居るだけ一般から期待さるゝ處多く同會も盛會を豫想されて居る

高木氏昇進
海軍大佐となる

大野村出身（明治四十二年宮高木武雄中佐は去月二十六日聖上陛下行幸の下に行はれた海軍大學卒業式當日一時を賞讃されてゐる

債務調停事務輻湊
平支部の昨今

平支部に於ける臨時債務調停は去る十月開始以來の申立五十三件に達し最近では不況に加ふるに歳末が迫つた爲大繁忙で主任の中島、關口兩判事は十日頃調停室の出來上るのを待ち遠しがつてゐる程で今一日も二件を以て解決されてゐる

空菓覗ひ御用心
寒さの募るに隨つて
鼠賊の横行漸く頻繁

最近寒さが募るに隨つて鼠賊の横行漸く頻繁に來たルンペンなどによつて戸外の履物が多く此點の用心が肝要であるが地方に於ける被害の大部分は錠を破つて侵入するなどの本式なのは至つて尠く炭鑛地に職を捜し來る列車へ飛込まんとする氣配の幼兒を背負つた見窄らしい女あるを通行人が發見引き止め駐在巡査に引渡したが右は大浦村下仁井田日雇八太郎内妻山木ハル（三）と二女ハルエ（二）で夫の放蕩を悲觀し自殺の目的で前夜無斷家出し前記に死に場所を求めたが自宅に殘した長男宏（八）の事が氣に掛り思案に暮れて居たものと判明、八太郎を喚び出し將來身を固めるやう懇々戒め當人にも不心得の無きやう説諭の上歸宅せしめた

ご念入りに惡どい男
只飲み＝立換へ汽車賃踏み＝
上野驛頭馬の藝者を捲く

小名濱町旅館料理店新米へ二十五日東京市小石川區竹早町鰹節問屋渡邊庄太郎後五日間同人にサーヴイスした同家の藝妓なる子事芳（三四）と稱して投宿した男が名産品紹介のため大量の鰹賀トク（三五）に汽車賃を立換へさせ同人を伴つて上京し上野驛の人込みに乘じてなる子を捲いてしまつたので悄然と歸つたなる子と宿主から三十日平署に詐欺の訴へをした

浪江の殺人未遂
豫審決定
近く平支部で公判開廷

双葉郡浪江町上岡大字本岡調中であつたが今一日有罪本町一六吉田榮治（五四）が十と決定平支部の公判に附され月九日元内縁の妻堀川スズ（四四）に復縁を迫つて拒絶されたのを憤り大石を以て顔面を毆打し瀕死の重傷を負はせた殺人未遂事件は平支部に於て荒井豫審判事が取扱ひ平町生れ前科三犯石川文四郎（三四）は東京、千葉、埼玉に反する學級の減等頗る憂慮へをした

女給誘拐未遂
平生れの文公檢舉

平町生れの文公檢舉は平支部に於て公判開廷の決定を待ち遠しがつてゐる程で今一日も二件餘に及んでゐる程である

磐中人國記 二
赤井嶽男記

磐中第一回の卒業生を出した明治を吹き乍ら毎晩隣り村へ夜遊びに出かけたのが病みつきとなつて途中から脱線して了つたのもあつたり、金が續かなくて廢めたのがあつたり、それこそ本當に青雲の志を懷いて二十九年に入學した百十六名の生徒は段々減つて行つて最後のゴールに入つたのは半分足らずの四十三名に過ぎなかつたが其の年に始めて滿幅の得意に紫外線に灼け

◇輝かしい四十三名

◇ヤニさがる親爺連

誰やらのマンネリヅムでは無いが前後五年間に亘り『螢雪刺股の功を積んで』二十四學級（昨年迄は二十位である。

◇賢愚三千十七名也

爾來星移り物流つて開校當時の二學級から今日の迄は

◇全郡に逼き卒業生

次が地理的關係上内郷の百二十六名、敎育村の湯本が九十二名、以下左記の如く各町村夫々の卒業生を出

たみづおちのあたり迄胸毛を波打たせ乍ら目を細くして下顧を撫でたりしたもんだ、何せ二十世紀になつて二年目の出來事なんだからから強ち誇張の形容でもあるまい。

◇強ち誇張の形容でもあるまい

◇ベッタだの獨逸語へ貝泊に一人の磐中卒業生が無い事はまさに天下の奇觀である

四倉四六、小名濱三〇、平窪三〇、飯野三二、好間五八、神谷二六、夏井考、家屋敷迄叩いたりして一九、高久三〇、草野三一九、赤井四二、鹿島一九、大浦四一、磐崎四三、大野三二、豊間二〇、玉川一三、渡邊一五、泉二五、江名一八、上遠野一九、植田四二、錦一七、上遠野九、山田一〇、勿來二二、川部七、川前四、上小川一〇、下小川一五、箕輪五、永戸三、三坂四澤渡四、田人四、荷路夫三、貝泊〇、計一、三一四

◇各方面へ雄飛概況

次に學校出其他成功して各方面へ進出雄飛してゐる者、家屋敷迄叩いたりして三そうした方面に流零落魄、所謂港の唄に涙ぐんでゐるもの、其他死亡等

縣内他都市一七三、縣外各府縣一、〇二八、北海道三六、樺太七、台灣一二、朝鮮二三、滿洲九、關東廳一四、南洋五、外國二三、不明二四、死亡三一八　計一、六七二　合計三、〇一七

年納稅と肥料代に迫る焦る現金化
畑の物は次々と堀られ
街へ行く昨今

……（B）……

▽　△

初冬の寒空は重苦しい程に曇つて居る、夏井川べりの畑では頻冠りして股引紺繼ぎの親爺さんが鋤を手に韮堀り乍ら『サク〳〵』と堀り出されて行く。

▽　△

滿載された韮車がお内儀さんの手で川岸に運ばれると手を眞つ赤にこごらした嫁らしい人が受取つて一本〳〵町嘴に洗ひ清める、斯くして綺麗になつた鮮新な韮束は聽て崩强な息の手に依つて消費都市の平町へ運ばれて行く。

▽　△

大時化で遲延した稻の收獲、寸暇をも惜む最近の農家が何故焦るか蔬菜の現金化『何が彼等をそうさせたか』その痩せたる双肩にこそ肥料代、畑雜地租の二大負擔があるのだ。

（玲光生）

鮮魚類
依然高値
破損漁船の復舊作業中で出漁するもの少

小名濱町では歳末の繁忙に備ふる爲例年の如く事務員集配人各十名を臨時雇ひ入るるが學生其他希望者が既に數十名に達し來月二十日迄には二百名餘りに及ぶべく之が詮衡は極めて困難なので局では今回から試驗制度によつて採否を決定する事になつた、尚手當は一日八拾錢平均である

局の臨時雇志願
二十倍に達せん
試驗で採否を決定

平郵便局では歳末の繁忙に備ふる爲例年の如く事務員集配人各十名を臨時雇ひ入るるが學生其他希望者が既に數十名に達し來月二十日迄には二百名餘りに及ぶべく之が詮衡は極めて困難なので局では今回から試驗制度によつて採否を決定する事になつた、尚手當は一日八拾錢平均である

鮪七割—八割、平目二一—二二、花鯛一五—二〇、カナガシラ一二—一三

赤井匡救事業着工
一萬二千圓の匡救土木事業

一萬二千圓の匡救土木事業たる赤井村茨原川改修工事は今一日から着工したが一日平均百五十人竣功迄には延一萬以上を使役する見込である

堀坂隧道完成
湯本綴間の堀坂トンネル改修工事は堀江工業の手に依り着々進行し天井は既に切開されて目下側壁の築作中で十日完成水戸運輸事務所に引渡す事となつたので數多い常磐線のトンネルから一つ減るわけである

平町教育費累年比較
平町三小學校

に於ける不況の影響は農漁山村の疲憊に伴つて著しく敎育費の削減、學級整理、擔任外の敎員整理が六年度に於て斷行され兒童の增加に對し十三日午後一時から公賣を執行する事となり今

未納罰金整理
平檢

事局では罰金未納者に對し昨三十日督促命令を發送したが尚は來六日には最近の十六名を呼び出し整理に着手する

水道料滯納
平町では七

督促狀發付八、九三ケ月間の水道料滯納差押へ人員百六十名金額二百八圓に對し十三日午後一時から公賣を執行する事となり今

高萩吉次
高萩安吉（四二）が

高萩吉次は高萩所有養魚池九月十日から鯉を窃取したと世間に言ひ振らし今一日安吉から平署に名譽毀損で告訴された

。。。